

## 認定心理士の会から

The more you know, the more you see!

近年、委員就任以前から、認定心理士の会が企画するイベントに、予定が許す限り、趣味のダイビング（海のほう）もそっこのけで、参加しています。これは、コロナ禍でオンライン化が普及した恩恵です。イベントのテーマは、最新の心理学研究から現代的な社会問題まで幅広いのですが、中でも、「新刊連動講座」は激アツです。最新心理学関連書籍の解説や裏話を著者から直接聞ける機会なのですから。私も心理学者として、専門分野の知識を更新し、再構築する重要性を感じます。

さて、表題の言葉は、私が心理学関連の授業や出張講義などで、知識を習得すること（≒勉強）の重要性を受講生に伝えるために紹介するものです。直訳すれば「知れば知るほど、見えるようになる！」でしょうか。この言葉に出会ったのは10年ほど前です。バリ島ダイビングの水面休憩時間中にふと目に留まった、ビーチ沿いに掲げられた海洋環境教育財団の看板の、マンジュウイシモチのイラストの下に添えられていた言葉です。そのとき、はたと気づきました。海況や海洋生物に精通したダイビングガイドが見る海中世界は経験の浅い私が見るそれと明確に異なるのだと。ダイビングガイドはその豊富な知識により、私が見つけれない生物を発見したり、私が見えない情報で危険を予知したりできるのです。知識が単なる情報の集積でないことは明らかでしょう。

このことを「心理学」の知識に置き換えるとどうでしょうか。読者の皆様には、これ以上の説明は不要かと思われま。認定心理士の会に入会していれば、多様で幅広い知識が得られるイベントに基本無料で参加できるのですよ。ああ、なんと素晴らしいことか！認定心理士の会が提供するイベントを通じて、心理学という広大で深い海でのダイビングを楽しんでみませんか。

（認定心理士の会運営委員会委員 向居 暁）

## 若手の会から

地域や人とのネットワーク作り

日本心理学会若手の会は、若手の会員同士で情報交換を行いながら、ネットワークが構築できるように、日々活動をしています。今年の日本心理学会第88回大会でも、「若手の会 大会企画シンポジウム」や「若手のための進路相談会」、「学部生・高校生プレゼンバトル」などを企画しました。学会企画に参加していただけただけで、若手の会の会員と少しでも交流いただけたなら幸いです。

ところで、私が携わらせていただいている、がん患者さんやご家族の心理社会的な支援では、地域のネットワーク形成が求められています。がんになったことで不安を感じるだけでなく、ご自身のことに加えて大切なご家族のことも心配になってきます。病院に通院している間は医療従事者が患者さんやご家族のケアを行っていますが、通院と通院の間や、治療が一段落したあとの空白期間が問題となることもあり、一人で無理に抱え込まず、サポーターを増やしてあげるよう、支援の輪を広げていくことが一助になると考えられます。

心理学の若手は、学校に所属している間は先輩や同期が当たり前にはいますが、卒業・修了後、他の学校、他の企業などとネットワークを作るのは、自ら進んでいかないと難しいかもしれません。また、オンライン講義やテレワークなども進み、同じ所属の方とも交流をもつことが難しいと感じる方もいるかもしれません。気軽に相談ができる人や居場所があることは、研究活動や臨床活動が円滑に進めやすくなる一助になると考え、そのような相談相手になれるように、また相談場所が作れるよう精進していきたいと考えています。若手の会では、今後も、幅広い分野の研究や教育、応用で融合し、心理学の今後の発展に貢献していくことを目指して、日常的な交流を意識することで、ネットワークを作っていきたいと思えます。

（若手の会幹事 佐藤稔子）